

マイナ490万枚 過大公表

総務省 普及状況に廃止分含む

より過大に見えると指
総務省は14日、実態

描かれてきたマイナンバーカードの普及状況の説明をめぐって、取得した人の死亡などに伴い廃止された分を除いた「保有枚数」は6月末時点では約880万枚だったと公表し、これまで公表してきた「交付枚数」に比べると約490万枚少ないことが明らかになりました。

これまで廃止分を含む交付枚数の累計を示していました。人口に対する保有枚数率は約70%となります。総務省は6月末の交付枚数を約9306万枚と公表しており、それと比べると約490万枚少なくなります。人口に対する交付枚数の割合は7月9日時点で約74%でした。

松本剛明総務相は会見で「カードの普及状況を示す指標として累計の交付枚数を申し上げてきた。月末の保有枚数もこれから公表していく」と述べました。

廃止枚数には自主返納された分なども含まれます。カードの普及状況に関するところは、より実態を表す数値を公表するよう求める声が出していました。